

セタシジミ種苗生産効率化研究

久米 弘人

◆背景・目的

D型仔貝の量産放流事業が行われているセタシジミの種苗生産について、生産量の安定向上とさらなる効率化を実現するための試験を行った。

◆成果の内容・特徴

- ・採卵用水としてろ過湖水を次亜塩素酸ナトリウムで消毒し、チオ硫酸ナトリウムで中和したものを用いた結果、卵の生残率の向上が見られたが、孵化までの間に用水が白濁する場合があります、生残率が低下することもあった。
- ・採捕後の親貝は蓄養期間が長くなるにつれて、有効卵率は低下した。(図1)
- ・今年度の種苗生産に使用した親貝は禁漁期間である6月に特別採捕したもので、過年度まで実施していた禁漁期間前の4月に採捕し蓄養した親貝よりも有効卵率は高かった。
- ・8月以降でも水深15m以深の未産卵の親貝を使用することで良質な卵を得ることができた。
- ・採卵用水の水温が28℃以上になると、蓄養期間が短くても有効卵率は低下し、孵化までの生残率も11.1～54.1%と低かった。(図1.8月13日)

◆成果の活用・留意点

- ・蓄養中に卵質を低下させないような親貝蓄養技術開発を行う。
- ・夏期の高水温期に適した種苗生産技術の開発を行う。

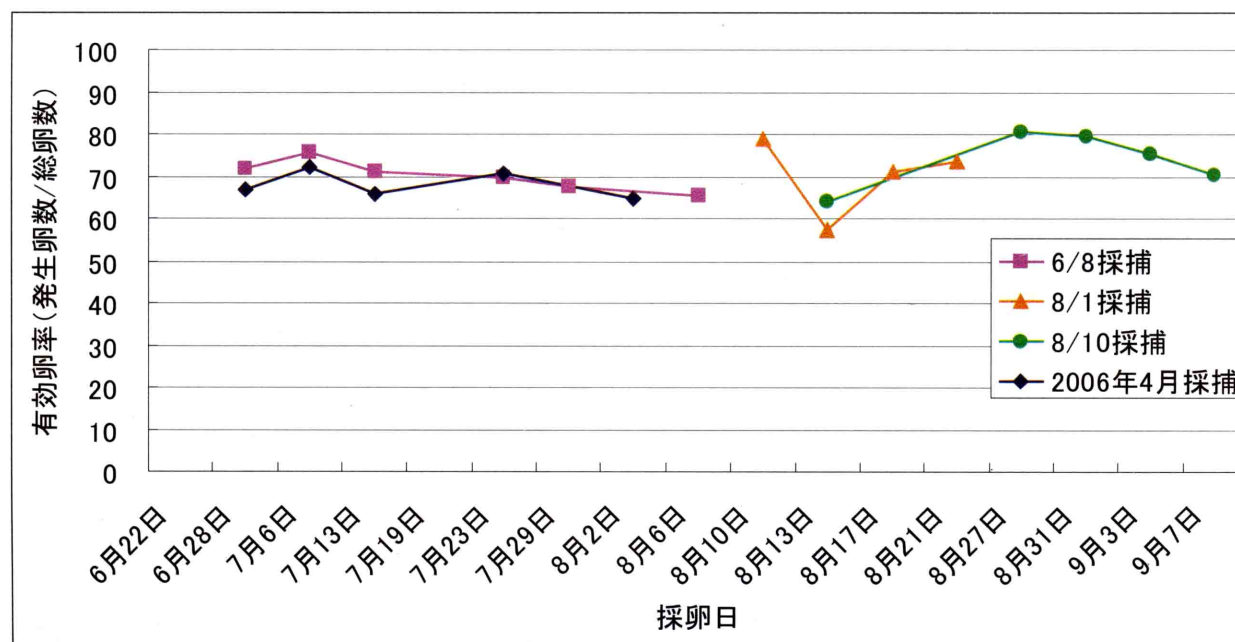


図1. 採捕日の違いによる有効卵率の推移